

3. 流域治水に関する取組事例の共有

大阪府
(大阪府域)

取組項目	コミュニティタイムライン作成支援講習会
主な内容	行政の防災担当職員や地域住民を対象に、コミュニティタイムライン作成に関するノウハウ習得を目的とした講習会を開催。大阪管区气象台や近畿地方整備局から防災気象情報や水災害に関する説明を実施した後、各警戒レベル毎にとるべき行動を各自で検討し、実際のコミュニティタイムラインの作成方法を実習により学んでいただいた。

■ 地域の災害対応力の向上に向けて

※講習会でカバー

① 動機づけ

・災害リスクや実態を知り、対応の重要性を認識する。

② 理解

・タイムライン作成をとおして、必要な対応(共助)を理解する。

③ 習熟・知識化

・地区での話し合いや訓練を通して、習熟と知識化を目指す。

④ 動機づけ

・地区で知識スキルと組織対応力を蓄積する。
⇒①へ

● 第一部 防災に必要な知識を得る

- 気象情報に関する説明
・大阪管区气象台より

- 水災害に関する説明
・近畿地方整備局水災害予報センターより



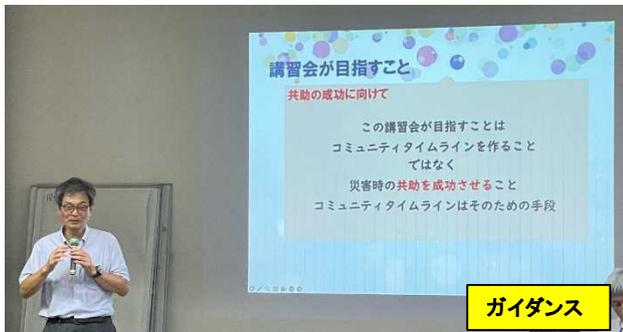
● 第二部 災害の実相に触れる

- 災害派遣(能登)経験者のお話
・大阪府岸和田土木事務所より



● 第三部 演習 コミュニティタイムラインを作る

・各警戒レベルごとに行うべき行動をグループで確認・ポストイットに書き出し、タイムラインに記載すべき内容を、全員で共有した上で、講習会の中でタイムラインを一事例作成した。



ガイダンス



検討内容の発表・タイムライン作成



グループワーク状況

**環境省 近畿地方環境事務所
(大阪府域・京都府域)**



【令和7年度予算 480百万円（700百万円）】

気候変動影響への適応取組を強化し、安全・安心で持続可能な社会の構築を目指します。

1. 事業目的

気候変動の影響は国内外で既に現れており、さらに深刻化する可能性がある。そのためパリ協定等により、各国とも気候変動による被害の防止・軽減を図る適応の取組が求められている。日本では、平成30年6月に気候変動適応法が成立し、適応策の推進は、骨太の方針、クリーンエネルギー戦略等にも盛り込まれている政府の重要課題である。これらを踏まえ、気候変動適応法に基づき、適応策を推進することで、健康影響の防止による生活の安定、農林水産業などの健全な発展、国土の強靱化などを総合的に目指す。

2. 事業内容

（1）気候変動影響評価・気候変動適応計画の進捗管理

気候変動適応法に基づく気候変動影響評価・気候変動適応計画の進捗把握を効果的・効率的に実行する。また、計画の改定に向け、戦略を検討する。

（2）将来への適応策の強化

気候変動を踏まえて、将来の台風に関する影響を評価し、激甚化する気象災害への対策の充実を図る。また、気温上昇が1.5℃を超える可能性があることから、その場合の適応策を検討し、それらを分かりやすく情報発信する。

（3）地方自治体、民間企業等の適応策の支援

地域特性を加味した気候変動影響評価手法の検討などにより、地域における適応を推進する。また、サプライチェーンを含めた気候変動影響評価の手引きの作成などにより、民間企業における適応を促進する。

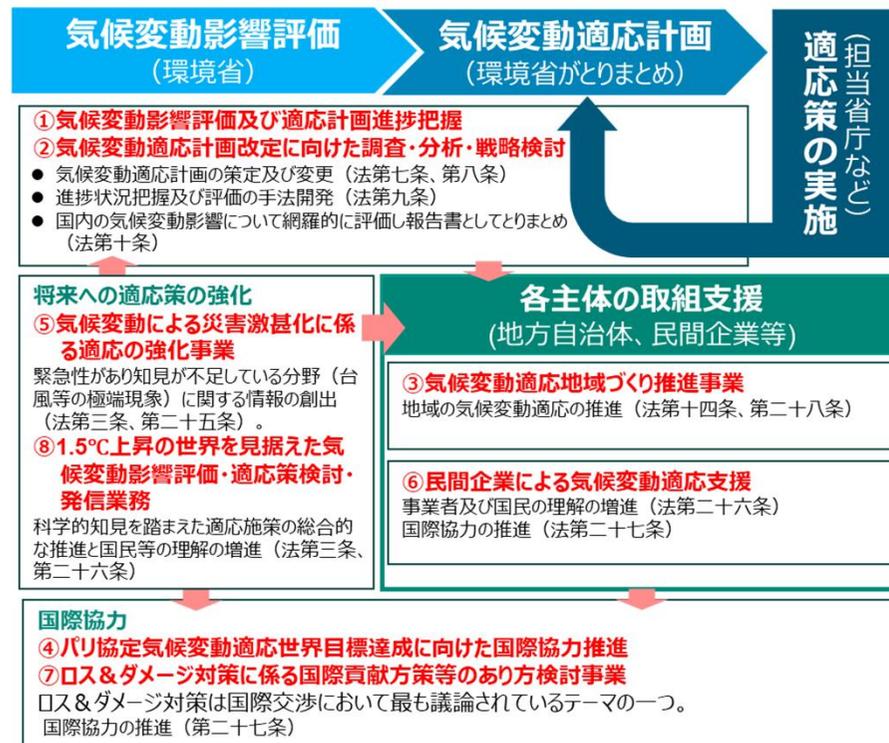
（4）適応策の国際協力

気候変動に脆弱な開発途上国において、能力強化や官民連携を通じて国際協力を推進する。また、気候変動の悪影響に伴うロス&ダメージに関する国際貢献方策等を検討し、我が国の民間セクターによる取組を後押しする。

3. 事業スキーム

- 事業形態 請負事業
- 請負先 民間事業者・団体等
- 実施期間 平成18年度～

4. 事業イメージ



取り組み・主対象	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
① 知る機会を増やす	◎水難事故の啓蒙活動 地域 個人 企業・団体			
	◎連携活動 地域 個人			
② 自分事と捉えることを促す	◎リスク情報等の提供 地域 個人 企業・団体	● 人と防災未来センターとの連携事業 市民向け「ゲリラ豪雨マスターになろう！」WSの開催（7/19、7/20、計4回） 市民向けワークショップの実施		
	◎教育活動 地域 個人		● 対象中学校へのビデオ教材（初版）の配布 中学校におけるゲリラ豪雨情報の活用実証授業のビデオ教材化	
	◎訓練活動 地域 個人			
③ 行動を誘発する	◎計画策定 地域 個人 企業・団体			
	◎水災害対策の支援 個人		● 神戸須磨シーワールドのヒアリング（12/4） 中小規模施設におけるゲリラ豪雨対策状況のとりまとめと、とりまとめ資料（事例集：ガイドライン）の共有／対策推進	
	◎水防活動の支援 地域 個人 企業・団体			

淀川水系流域治水協議会（環境省）

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)

教育活動

- 中学校におけるゲリラ豪雨情報の活用実証授業のビデオ教材化
- ・初版ビデオ教材の限定公開中
<https://youtu.be/e1aknE1evGQ>
- ・初版ビデオ教材を中学校に配布
対象：南宇治中学校、東宇治中学校



ワークショップの実施

- 人と防災未来センターとの連携
- 市民(小学生)向けのワークショップ:「ゲリラ豪雨マスターになろう!」を実施(7/19、7/20)
- ゲームをしながら、ゲリラ豪雨対策の重要性を学ぶ



事例集・ガイドライン策定

- 中小規模施設におけるゲリラ豪雨対策状況のヒアリング
- ・神戸須磨シーワールド訪問(12/4)
- ヒアリング結果のとりまとめ資料(事例集:ガイドライン)の共有/対策推進

①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える

国土交通省
淀川河川事務所
(大阪府域・京都府域)

○ 阪神淡路大震災からの復興で舟運が活躍する等、舟運復活の機運が高まる中、淀川大堰閘門の整備を令和3年度から推進し、令和6年に船の航行が可能となった。令和7年3月にて、淀川大堰閘門の名称「淀川ゲートウェイ」を発表し、運用を開始。この整備により、災害時の物資輸送等をはじめ、平時には観光や公共工事でも舟運の活用が見込まれる。

○淀川クルーズ OSAKA BAY 新航路 OPEN FESTIVALを開催

2025大阪・関西万博開幕1ヶ月前となる3月16日に、淀川大堰閘門の通行開始、十三船着場の完成を報告。淀川の新たな航路を観光船が航行した。

- 日 時：令和7年3月16日(日) 10時30分～11時30分
- 主 催：淀川舟運活性化協議会
- 出席者：近畿地方整備局長、近畿運輸局長、大阪府知事、京都府知事、沿川市町首長（大阪市、高槻市、守口市、枚方市、寝屋川市、摂津市、島本町、京都市、宇治市、八幡市、久御山町）他、関係団体・企業等



淀川大堰閘門の名称を披露



十三船着場の利用開始を記念したテープカット

○万博会場来場者輸送社会実験を実施

2025大阪・関西万博開幕中に淀川舟運活性化協議会の取組として、万博会場への来場者輸送の課題・効果検証を目的とした社会実験を実施した。

- 日 時：【十三発】令和7年8月23日・9月4日・9月20日（各30名募集）
【十三発】10時20分～11時30分（9/4は海上強風警報発令により中止）
【毛馬発】10月5日（日）（25名募集）9時20分～11時30分
- 概 要：船上で武庫川女子大学三宅先生（9/20のみ）他日は職員が淀川の歴史・見所等を解説した。十三発は3日間で4,950名、毛馬発は1日のみで438名と多数のご応募をいただき興味・関心の高さが伺えた。

8/23・9/20 十三～万博会場

10/5 毛馬～万博会場



十三船着場を出航



毛馬船着場を出航し、淀川ゲートウェイを通航

○京都（伏見）～大阪（十三）間の社会実験を実施

京都府主催「淀川舟運フェスティバル」と連携し、京都府が運航した京都(伏見)～背割堤(八幡)間の観光船運航を引継ぎ、背割堤(八幡)～淀川ゲートウェイ～大阪(十三)の観光船運航社会実験を実施。

- 日 時：令和7年5月11日(日) 13時30分～18時00分
- 主 催：京都府（伏見～背割堤）、淀川河川事務所（背割堤～十三）
- 概 要：全体で221名が観光船に乗船※伏見～八幡間は2日間で167名、八幡～十三間は57名、船上で職員が淀川の歴史等を解説しました。



伏見船着場から出航する船



淀川ゲートウェイを通航中



十三船着場へ到着した船

○かわまちづくり計画の取組支援

国土交通省では、水辺を活かして地域の地域の賑わい創出を目指す取組を推進するため、「かわまちづくり」支援制度に基づき、市町村等が作成した計画の登録を行い、ハード・ソフト両面から支援を行っています。

淀川河川事務所では、淀川沿川一体となったかわまちづくりを推進すべく、令和7年10月時点で5地区の舟運を活用したかわまちづくり計画の支援を行っています。

- ・「淀川河川敷十三エリアかわまちづくり」R4.登録（大阪市淀川区）
- ・「淀川河川敷枚方エリアかわまちづくり」R5.8登録（大阪府枚方市）
- ・「八幡市かわまちづくり」R5.8登録（京都府八幡市）
- ・「伏見地区かわまちづくり」R5.8登録（京都市伏見区）
- ・「宇治市天ヶ瀬ダムかわまちづくり」R5.8登録変更

【各地区整備イメージパース】



枚方



八幡



伏見



宇治



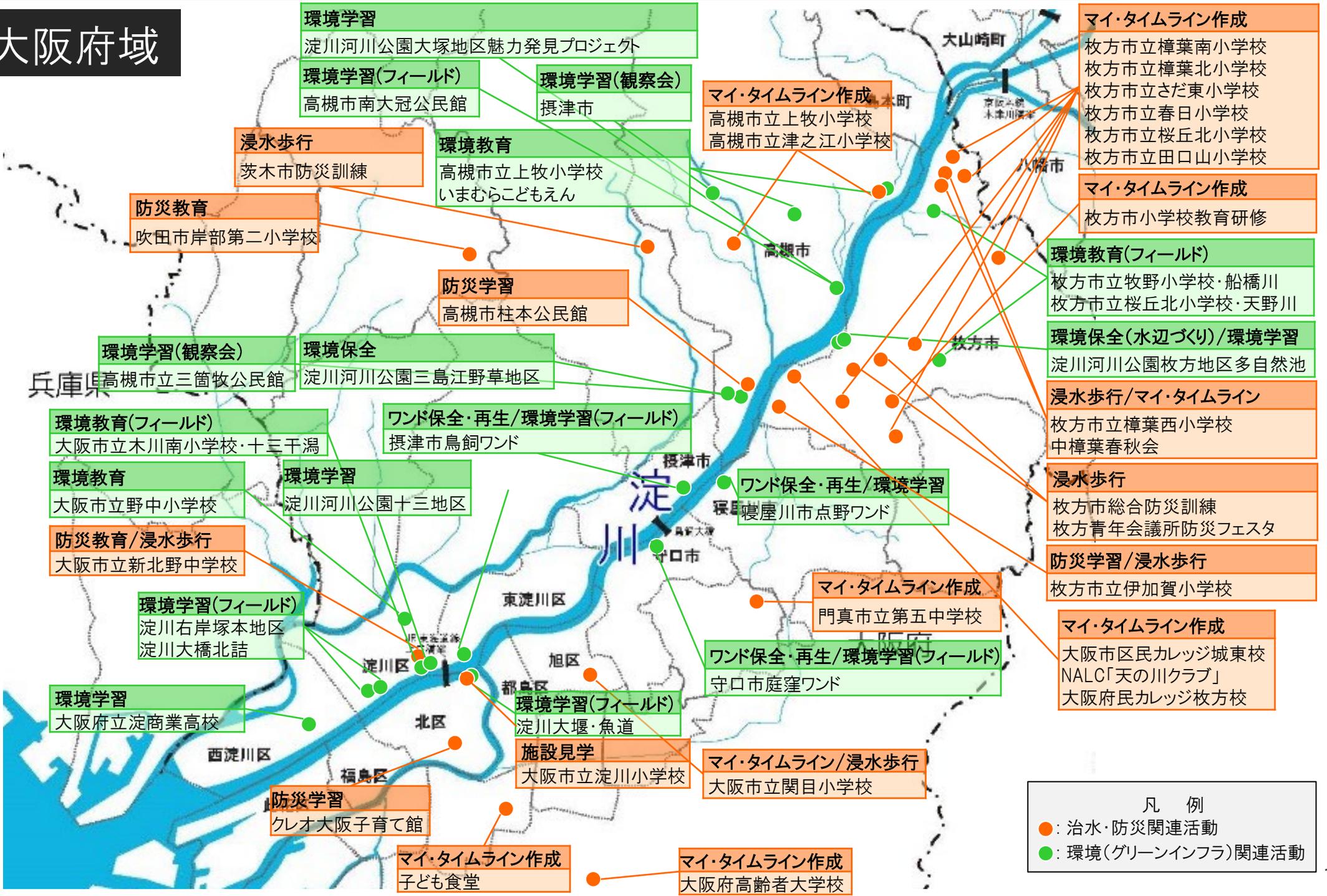
十三

河川レンジャー
(大阪府域・京都府域)

R7年度流域治水プロジェクト関連活動実績図 [R7.12とりまとめ]



大阪府域



被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

小学校教員研修向けのマイ・タイムライン学習

枚方市教員より依頼を受け、河川レンジャーが研修内容を企画し実施した。河川事務所職員による解説ののち、レンジャーが授業で水防災を伝える手法を伝えた。研修後、防災授業の依頼があり、3校5件の活動実施に至った。



児童向けを想定したデモ授業 河川事務所職員による解説 複数の小学校からの依頼、実施

教員を対象として学校教育での水防災啓発を訴え、児童の学習機会を広げた。

浸水地歩行体験キットを使用した早期避難啓発

浸水地歩行体験キットを用いた住民の早期避難啓発を継続実施。自治体の防災イベント等に出展することで、他地域の防災組織などへ活動を広げているほか、歩行体験キットの設計図を共有し、他地域での活動に貢献している。

茨木市の事例



自治体防災イベントへ出展



複数地域での活動へと展開

他地域での活用



設計図を共有し広域に体験を波及させて啓発に貢献している。

自然環境の保全・復元などの自然再生

鳥飼ワンド大作戦

学生団体や地域団体等と連携し外来種防除やワンド維持管理に取り組みながら、市民対象のブース出展やワンドへの見学ツアーなどを通して鳥飼地区の環境や整備計画を周知。舟運事業等とも絡めて鳥飼地区の賑わいを創出している。



外来種の防除活動



ワンドのいきもの観察



ブース出展による紹介

ワンドの維持管理に取り組みながら、鳥飼地区の賑わいを創出

魅力ある水辺空間・賑わいの創出

枚方公園多自然池エリア なごめる水辺づくり

「かわまちづくり」(令和5年8月登録:枚方市)との連携が計画されている枚方地区多自然池において、定例の清掃活動のほか、生物観察会や防除活動を実施。市民とともに川づくりを目指す拠点として活動を進めている。



定例の清掃活動



外来植物の除去活動



多自然池での生物観察会

市民とともに川づくりを目指す拠点として活動を展開。